

令和2年度 阿南市立阿南第一中学校評価書

I 経営の重点に関する評価

学校教育目標 「基本的人権を尊重し、心豊かにたくましく生き抜く人間を育てる」

A:大変よい, B:まあまあよい, C:少し課題を感じる, D:課題である

項目	内容	評価	A, Dについてはコメントを付す
重点目標(重点的に求める価値目標)	1)「確かな学力」育成のために「学習活動の見える化」を推進する	A	山場のある授業展開について研究し、さらに授業のユニバーサルデザイン化を推進することができた。
	2)あいさつ日本一の学校づくりをする。	A	教職員・生徒ともに挨拶ができています。
	3)人権教育の充実を図り、人権文化の花開いた学校作りをする。	B	
	4)部活動の充実を図り、体育・文化活動両面から生徒を育てる。	B	
	5)勤務の在り方の見直しの中で、生徒も教師も共に伸びる学校組織を作る。	B	
具体的な取組 (組織として価値観を揃えて取り組むこと)	1)様々な生徒の学習活動や、取り組みを一目で分かるように掲示を工夫するなど「学習活動の見える化」に取り組む。	A	生徒会学習部が中心となって様々な工夫を行っている。
	2)生徒をみんなで育てる意識のもと、「ふれあい授業」を実施し、指導力の向上を図る。	B	
	3)授業のめあてや目標の掲示と、授業のまとめの時間の確保を实践する。	A	めあてや目標の掲示は、生徒アンケートでは概ね達成できていた。
	4)家庭学習の充実のために「家庭学習の友」を活用して取り組む。	B	
	5)「全国学力・学習状況調査」の方向性が求められる学力だと認識し、学校全体で問題について研修する時間と機会を確保する。	B	
	6)英検、漢検、数検等に学校を上げて取り組み、たくさんの生徒がチャレンジできるムードをつくる。	B	
	7)全教職員が特別支援教育について正しい認識と理解のもと、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」に基づき、個々の生徒の実態に応じた適切な指導を推進する。	A	特別支援教育の研修には全職員が参加し、専門的な知識を習得することができた。
	8)家庭との連絡・連携は、電話や文書だけでなく、直接の面談を常とする。保護者と共に生徒の育成に努める。	B	
	9)学校日より、学年日より、ホームページ、メール配信等によって情報発信を行い、保護者や地域と連携を図る。	A	メール配信では、行事の連絡だけでなく、学習や家庭生活について活用できた。
	10)生徒会や委員会活動の活性化を図り、生徒を中心とした活動に積極的に取り組む。生徒のアイデアを積極的に採用する。	A	生徒会専門部会が活発に活動できていた。
	11)人権アンケート等をもとに本校の実態を正しくとらえ、いじめのない学校づくりを推進する。	A	定期的にアンケートを行い、いじめやいじめにつながる事柄について早期に把握し、対応する事ができている。
	12)不登校等、さまざまな問題に直面している生徒・家庭と真摯に向き合い、欠席が続く場合は、学校長も保護者に面談し解決の糸口を探る。	B	
	13)生徒と共に体育活動や文化活動に取り組むことにより、部活動の充実を図る。	B	
	14)保幼小中の連携のため、「出前授業」を継続して行う。また、「幼児との触れあい体験」にも取り組む。	C	新型コロナウイルス感染予防のため、実施できなかった。
評価指標 (具体的な求める子どもの姿・行動目標)	1)相手の立場に立って行動できる思いやりのある生徒	B	
	2)基本的生活習慣を身につけて、自らを律する生徒	A	落ち着いた生活を送ることができ、規範意識も高くなっている。
	3)意欲を持って何事にも根気強く取り組む生徒	B	

学校の自己評価・改善方策	「授業のユニバーサルデザイン化」の研究・実践を行う中で、落ち着いた授業を展開することができ、生徒の学校生活も落ち着いた。今後も学習面・生活面の指導に重点を置いていきたい。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が落ち着いた生活を送れており、学校生活全般において中学生らしい姿を見ることができた。</li> <li>○地域や家庭が学校に協力し、地域で生徒を育てる意識が大切である。家庭や地域との連携を、引き続き密にして欲しい。</li> <li>○生徒たちが校内はもとより、地域においてもよく挨拶してくれる。大変素晴らしいと感じている。</li> <li>○学校のあり方が変わりつつある中で先生方も大変であると思うがこれからもよろしくお願ひしたい。</li> </ul>

II 学校評価

A:大変よい, B:まあまあよい, C:少し課題を感じる, D:課題である

大項目	中項目	小項目	評価	A, Dについてはコメントを付す	
1	教育課程	確かな学力	B		
2	学習指導	運動・体力	B		
3	教育課程、指導方法の工夫	TT指導の効果的な取り組み状況	B		
4		コンピュータの活用など情報教育への取組	A	IOTを活用した授業実践に取り組む教職員が増えている。	
5		教材開発や外部人材の活用等、工夫した授業の取組	B		
6		学校図書館の計画的利用、読書活動の推進への取組	A	図書館サポーターを中心に読書活動の推進ができた。	
7		体験活動、学校行事等の意図的・計画的実施	B		
8		保幼小中の円滑な接続を図る連携への取組	B		
9		食育の指導計画、指導、評価の実施状況	A	保健体育科と栄養教諭が連携し、食育の授業を実施することができた。	
10		授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を生徒に示す活動を計画的に取り入れている	A	学校全体で取り組み、生徒にとって授業展開がわかりやすくなっている。	
11		授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている	A	学校全体での取り組みとして、「何を学んだか」を明確にしている。	
12		生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	B		
13		「家庭学習の友」の効果的な活用状況	B		
14	生徒指導	楽しい学校	B		
15	学級経営	人格的発達のための指導	A	生徒は落ち着いた生活しており、問題行動はほぼ見られなかった。	
16	安全で安心できる学校	不登校生徒数の状況とその対応	B		
17		問題行動等への対応体制、他機関と連携の整備状況	A	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、南部子ども女性相談センターと連携をとり、種々の事象に対応することができた。	
18		保護者と連携した基本的な生活習慣育成への取組状況	B		
19		豊かな人間関係づくりに向けた意図的な指導への取組状況	B		
20		いじめ防止や規範意識の醸成のための具体的な取組状況	B		
21		人権教育	人権教育の充実	B	豊かな人権感覚を育む人権教育の実施状況
22			保護者・地域と連携した人権意識高揚への取組状況	B	
23			地域に学ぶ人権学習への取組状況	B	
24		人権教育推進に向けた職員研修の実施状況	B		

	大項目	中項目	小項目	評価	A, Dについてはコメントを付す
25	特別支援	特別支援教育の充実	「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成・実施状況	B	
26	教育	特別支援学級の運営	校内委員会の設置と全校支援体制の整備状況	A	教育支援委員会を設置し、全校で情報共有することで支援体制をとっている。
27			特別支援学級在籍生徒の自立活動状況	B	
28			特別支援学級と交流学級との連携状況	A	情報交換がしっかりとできていた。
29	進路指導		将来を見通した進路指導	キャリア教育・職場体験活動の実施状況	B
30			進路指導のための保護者、地域との連携協力の状況	B	
31			進路情報の整備、活用状況	A	全学年において進路情報のコーナーの充実を図った。
32	保健管理	安全と健康の保持	「学校保健計画」(法定)の整備、実施の状況	B	
33			意図的・計画的な保健指導の実施状況	B	
34			生徒の健康状態の把握と管理の状況	A	毎日検温の結果を記録し、健康状態を把握している。
35	安全管理	危機管理の徹底	学校事故への対応体制と対応状況	A	学校事故に対して迅速・適切に対応することができている。
36			保護者、地域、関係機関との連携の状況	B	
37			「学校安全計画」「学校防災計画」(法定)の整備、実施状況	B	
38			危機管理マニュアルの整備・活用状況	A	危機管理マニュアルをしっかりと見直し、現在の状況に即するものに改訂することができた。
39			施設安全点検の実施と整備・改善の状況	A	月一回の施設安全点検を確実に実施した。
40	組織運営	意図的、計画的な組織運営	効率的な組織運営を可能にする校務分掌等、組織体制の整備状況	B	
41			効果的な会議(職員会議等)の実施と運営状況	B	
42			学校の財務運営の状況(計画・執行・決済・監査の状況)	B	
43			勤務服務管理状況(健康管理・勤務時間管理)	A	教員の勤務時間を調査し、把握することができた。
44			各種文書、個人情報の管理の状況	B	
45			学校・学級事務の情報化等、効率化の状況	B	
46	研修	資質向上の取組	資質向上プログラム実施状況(面談等)	A	目標設定面談と最終面談を計画的に実施し成果をあげている。
47			継続的な授業改善等への取組状況	A	ふれあい授業週間を設定し、授業改善に取り組むことができた。
48			効果的な校内研修の実施状況	B	
49			校外研修への参加状況	B	
50	教育目標	目標の重点化	生徒の実態を踏まえ、重点化された目標の設定状況	B	
51	・学校評価	具体的な取組の設定	目標達成のための具体的な取組の設定状況	A	授業のユニバーサルデザイン化を推進し「わかる授業」に向けて取り組むことができた。
52			効果的な学校評価の実施状況	B	
53			学校評価結果の次年度への活用状況	B	
54		学校関係者評価の実施	効果的な学校関係者評価の実施の状況	B	
55			学校関係者評価委員の積極的な関与の状況	B	
56		生徒・保護者の意識の状況	生徒、保護者アンケートの結果	B	
57	情報提供	開かれた学校づくりを進める情報提供	情報提供のための様々な取組(学校・学年便り・メール、HP)の状況	B	
58			学校公開の実施状況	B	
59			学校評価結果の公表状況	A	ホームページでも公開している。
60	連携	保護者・地域との学校の	授業・行事等への保護者、地域住民等の参画・協力状況	B	
61		活性化につなげる連携協力	PTA、地域団体との連携・協力関係の状況	B	
62	教育環境	施設・設備	教材・教具・図書の整備状況	B	
63	整備		多様な教育活動に対応した教育環境(情報化等)整備状況	B	
64			余裕教室・特別教室等、施設・設備の活用状況	B	
65					

学校の自己評価改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善について、授業のユニバーサルデザイン化を取り入れた授業改善について研修を行い、その実践を行いながら生徒の学力向上を図ることができた。</li> <li>○読書活動の推進は、図書館、学級文庫を中心に行われている。その活動は充実している。また、学年の取り組みも充実してきたが学校全体としてより充実させていきたい。</li> <li>○特別支援教育において生徒の状況が多様化してきているが情報交換をしっかりと行い、全校での支援体制づくりに取り組むことができた。</li> <li>○進路情報の掲示場所を充実させることにより、より精度の高い情報の発信を全学年に対して行うことができた。</li> <li>○気になる生徒や休みがちな生徒へは定期的に家庭連絡及び家庭訪問を行い、連携を密にすることができた。</li> </ul>
-------------	--

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめのない学校をめざし、友人関係に配慮するとともに、不登校生徒やその傾向のある生徒の減少に向けて取り組んでほしい。</li> <li>○落ち着いた学校生活が送れている。</li> <li>○コロナ禍のなかでやれることをしっかりとやっていたにしている。</li> </ul>
---------	---